平成２８年度全国学・学習状況調査の結果

京都市立洛水中学校

４月１９日に、本校３年生８９名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・数学の２教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）より

Ａ問題（主として知識）において、国語は全国・京都市平均を４ポイント近く下回り、数学はさらに下回りました。Ｂ問題（主として活用）においては、国語・数学ともにそれぞれ大幅に全国・京都市平均を下回る結果でした。無解答率は全国・京都市平均とそれほど大きな隔たりはなかったことを鑑みると、解答に臨む意欲はあるものの、知識の定着が十分ではないことや、事柄と事柄を関連づけて考え、答えを見いだす力に大きな課題があると考えられます。得た知識を日常生活の中で使うことが大切です。

国語科より

国語Ａでの課題は、まずは語彙力です。「独創」の書き、「敬う」の読みができない生徒が全国・京都市平均よりも非常に多く、「手塩にかける」「白羽の矢が立つ」などの慣用句の誤答も多いです。また、熟語に使われる漢字の意味を捉える問題も誤答が多いため、漢字や熟語を覚える際、意味をしっかりと理解しながら覚えることが重要だと思われます。「文章を読み返し、文の使い方に注意して書く問題」「資料の特徴や役割を理解する問題」は全国・京都市平均上回る結果でした。国語Ｂにおいては「目的に応じて情報を読み取る問題」「目的に応じて要約する問題」などに誤答が多く、提示された目的の理解と言語情報を整理する力に課題が感じられます。「何を問われているのか」という目的を十分理解した上で、文章の要点・要旨を捉えながら読む力をつけていくことが必要です。文章構成を捉えたり、構成や表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えを書く問題は、全国・京都市平均に近い結果となっていました。

・熟語・漢字の意味を知ろう。
・読書などでたくさんの言葉、文章に触れよう

数学科より

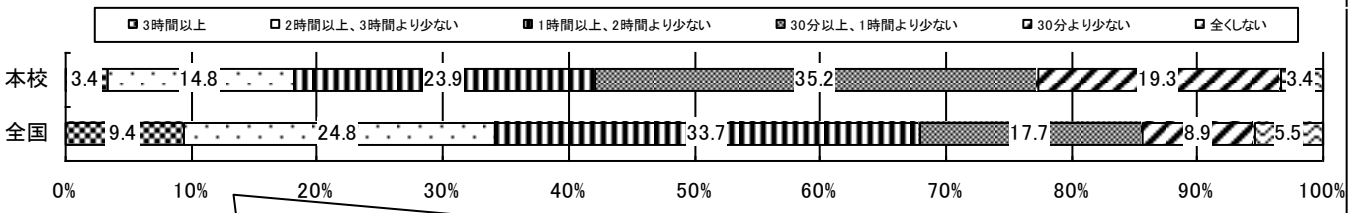
数学Ａにおいて、正負の数の計算や文字を含む加法・減法など基本的な計算問題に関しては全国平均を少し上回っていました。授業だけでなく終学習でも繰り返し練習をしている成果だと思います。しかし、関数（反比例）の問題は正答率も低く苦手なようです。グラフ・表・式の関係を見直してみましょう。

数学Ｂにおいて、資料の傾向を捉え数学的な表現を用いて説明する問題が全国平均をやや上回っていました。しかし、Ｂの問題では文章や資料から読み取り、説明や証明を自分の言葉などで答えなければならず、無答率も高い傾向にありました。記述の問題でも時間をかけてじっくり考えて、自分なりに書いてみましょう。

・関数の復習をしよう。
・じっくり時間をかけて考えてみよう。

生徒質問紙調査から①

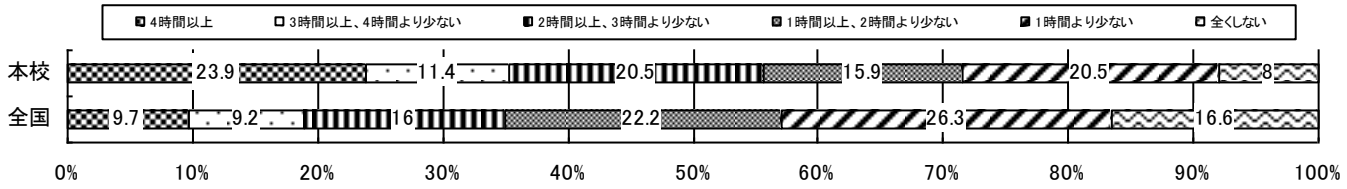
学校の授業時間以外に、普段（月～金）１日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか。（塾など含む）



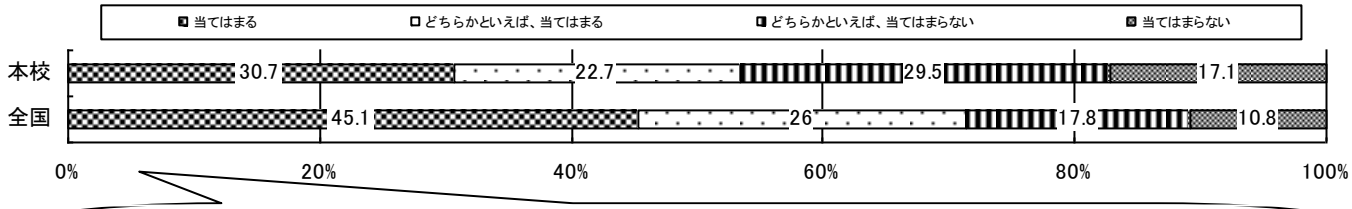
授業以外の学習時間が１時間以下という回答が、本校生徒は約 58%という結果です。それに対し、２時間以上という生徒は２割に満たない結果でした。中学３年生という大切な時期であることを考えても、家庭学習等の充実が大切であると思われます。また「家で学校の授業の復習をしていますか」という質問に対しては「ほとんどしていない」「全くしていない」と回答した生徒が６割以上いました。その日に習ったことを、その日のうちに復習することで定着率が上がります。家庭学習での復習を大切にしましょう。

生徒質問紙調査から②

普段（月～金）、１日あたりどれくらいの時間、ゲーム（パソコン、スマホ、携帯のゲームも含む）をしますか。



将来の夢や目標を持っていますか。



「質問紙調査から①」と合わせて考えると、スマホなどを使ってゲームをする時間の多さが、家庭学習の少なさに関係していると思われます。また、夢や目標を持つことは、学習への意欲につながりますが、約半数の生徒が、夢や目標を持っているとは言えない状態です。15 歳で将来の具体的な目標を持つことは難しいかもしれません。まずは、小さな目標（Ｉ期の目標、１年後の目標、教科別の具体的な目標など）を持ち、それを達成しようとすることが大切です。その気持ちが学習意欲の向上につながり、意欲的に学習することで必ず学力を伸ばすことができます。

全体を通した本校の成果と課題

洛水中学校では基礎学力の定着を目指して、毎日の朝読書、終学習、家庭学習シート、定期的なまとめテストといった学習の取組を行っています。３年生の子ども達も、１年生のときからそれらの課題に取り組み、入学時と比べて少しずつ、学力を伸ばしてきています。ですが、今回の全国学力調査の結果を見ると、それぞれの学習がつながりの中で身についていないことがうかがえます。身につけた知識を断片的なものとしてしか捉えられていないので、知識と知識を関連づけた問題や、考え方を問われる問題は特に正答率が低かったです。具体例を挙げると、「美」という漢字は読めるし書けるけれども、「賛美」や「優美」という言葉の意味に通じる「美」の意味は理解できていない、というようなことです。数学では、簡単な一次方程式を解くことはできますが、その一次方程式を生活の場面に当てはめて、考え方を問われるような問題はできない、というようなことです。国語では、熟語の意味と、漢字の意味がつながっていることを考えず、断片的に言葉を覚えている、数学では、計算の仕方は理解しているけれども、その式の意味は理解できていないということが言えます。答えは出せても、その意味が理解できていなければ、定着もしづらく知識と知識のつながりもの理解も深まりません。今後の学習としては、何においても「意味を理解する」「考え方を理解する」ということを大切にしてほしいと思います。

保護者の皆様へ

全国調査は、子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性を伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。全国平均との比較は、相対的に見たときの子ども達の現状を把握するためのものであり、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果と日々の学校での学習状況を合わせて考えると、本校の子ども達は与えられた課題に対して取り組もうとする意欲はありますが、目標を持って自学自習をする力には、まだまだ課題が感じられます。ですが、自主的に取り組む力が子ども達の将来を切り開くためには必ず必要であると思います。まずは、今日の授業、そしてこれまでの中学校での学習の復習を、自主的にできるようお声がけください。引き続き、子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。